

佐原の町並み

かわらぬ版

第10号

平成9年4月

・小野川と佐原の町並みを考える会
・佐原町並み保存会

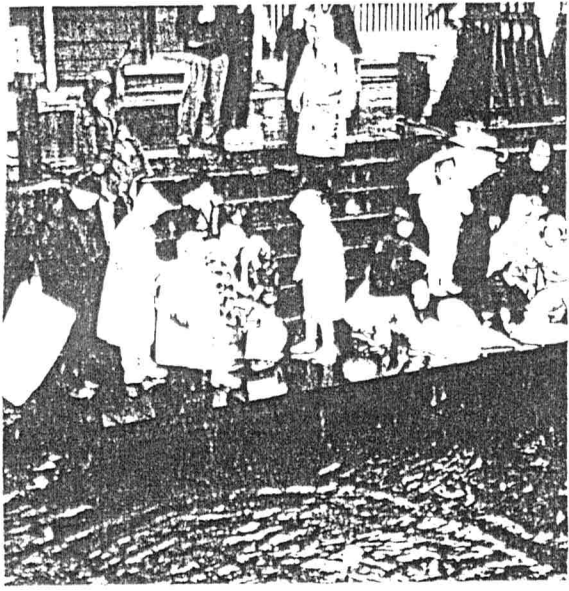
小野川に元気いっぱい

鯉の放流

「この川に住み着いて！」願いを込めて五〇〇尾

小野川に優雅な泳ぎで目を楽しませてくれる真鯉・緋鯉を想像しながら「町並みの会」と「子ども会」が共催で四月六日（土）に鯉を放流しました。

当日は雨天で、上流の探索や水质を調べることはできませんでしたが、伊能忠敬先生旧宅前の「だし」で小さな鯉や抱きかかえる程



の大きな緋鯉を「元気でね！」
「バイバイ」「捕まるなよ」と
言いながら川に放しました。
子ども達は「誰かに釣られてしまうんじゃないかなー」の心配の
声
：：：そこで

みんなが楽しめる鯉に！
鯉を釣ったら放してね
自分のものにしなさいね
小野川に住んでくれよ
あたたかく見守ってね

とまとめました。
皆さんのご協力を
お願いします。



重伝建選定後

初の観光シーズン！

春風と共に

町並みを散策する観光客が多数見うけられるようになりました。本会では、来訪者が気持ちよく観光できるよう、プランターへチューリップ千五百本を植え、道路沿いの自宅へ管理をお願いしました。今年も、重伝建選定の年とあつて観光客はぐっと増えていきます。三菱館にも団体でのお客様が多く見えるようになりました。

本会では、お茶のサービスや町並み案内をボランティアで行っています。

訪れた方々から「親切に教えていただいた」等お礼の手紙が多数届いています。地元の人が一声かけることで、佐原への印象が良くなります。

「また来たい佐原」になるよう、見かける観光客に温かく接してあげたいものです。

（手紙は、別紙に掲載）
三菱館でのボランティアに、あなたも協力してみませんか。

連絡先 ☎50-1214
市役所 まちづくり推進室



見どころ

ポイント

シリーズ①

建材革命

小堀屋さんの入口のガラス戸は、明治三五年に嵌められたものです。佐原で最も早い時期のもので、建物にガラスが導入されると、一階は防犯上から大きなガラス戸が嵌められるようになります。又、二階は格子・障子窓からガラス窓



に変化していきます。障子では濡れる心配がありましたから高さの低い窓にしておりましたが、ガラス窓になり大きくすることができ、部屋が明るくなりました。

このように、時代に合わせ家の形態は変化してきます。建物は、その家の時代を物語るものでもあります。